

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891000065		
法人名	社会福祉法人 ウエル 清光会		
事業所名	グループホーム 陽光苑		
所在地	〒 659-0034 兵庫県芦屋市陽光町3-75		
自己評価作成日	3月12日	評価結果市町村受理日	2016年 8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2016年 6月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状の進行を出来るだけ緩やかにし、毎日が楽しく穏やかに過ごして頂ける様、毎朝の体操やレクをおこなっています。ボランティアの行事や、散歩、買い物にも一緒に出かけたりしています。医療面では市内のクリニックと連携を取り、看護師は当施設の医務室の看護師がH28.4月より、入居者様の健康管理をしており、オンコール体制も整い、急変時も速やかに対応が出来る様になっております。今年度はスタッフ間のコミュニケーションを良くしグループホームの職場風土を変えていく取り組みも行って降ります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

安定した職員体制、看護師の常勤配置が確保され、今年度新たなスタートとなった。特に、利用者の高齢化・重度化が進む中、医療面での充実は大変大きい。同時に、事業所は理念でもある職員の育成環境、体制の整備を進めるとともに、意欲向上に向けた精神面でのサポートにも力を入れている。利用者が安心安全に暮らせるように、生活のペースや習慣を尊重した主体性を発揮できる場や機会を、個々の暮らしの中で見出そうとしている。職員は、利用者のできること、したいことを一緒に楽しみ、達成感から得られる笑顔を自然に引き出そうとしている。この利用者の笑顔のためにも、今以上の職員の積極性と弛まぬ研鑽を期待したい。今後の地域を巻き込んだ認知症ケアの実践と啓発に向けた新たな取り組みについても期待は大きい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念の唱和をおこなっている。理念の共有はほぼ出来ているが、新入職者は充分ではない。ウエル清光会のフィロソフィで理解をする努力をしている。	今年度は、法人理念を基にした事業所理念をより具体化し、リーダーを中心に浸透化を図っていく方針である。リーダーによる毎月の職員面談、さらには、フロア毎に目標を掲げる等、職員の意識定着、モチベーションアップを目指している。	職員個々の意識が高まり、理念実現により近づける機会となることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事のお知らせを頂き、希望される入居者と一緒に参加したり、外部からボランティアのイベントが月に1～2回あり楽しく交流されている。	多くの地域情報が寄せられ利用者の希望に応じて参加しているが、十分活用されていない。恒例となっている主催秋祭り、市の花火大会の見物については家族間の交流にとどまっている。中学校の運動会や地域のイベント等への参加機会を増やしていきたいと考えている。	利用者を通じて交流を広げることで、事業所の周知もより広がるのではないだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学校や事業所の新人さんが見学に 来られ入居者様とコミュニケーションを図る経験を されていた。今後家族懇談会の中で食事会 などもおこなっていく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2ヶ月に1回実施しており、事故報告や利用 者様の参加された行事などの報告、ご家族 様からのご意見を頂いたことへの対応やス タッフへの指導などをおこなっている。	併設特養との合同会議で、地域代表者、市担 当者、地域包括、社協、他事業所、家族等の参加が ある。職員研修や体制、業務改善報告を通じて意 見交換を行っている。各立場からの積極的な意見 や提案を得る場ともなっており、参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	些細なことでも、芦屋市に相談し、指導をし て頂いている。	運営推進会議以外でも、事故報告と併せ相談す ることは多い。事業所連絡会を通じた研修や情報 交換の機会もある。継続して協力関係を深めてい きたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	常に検討して、取り組んでいる。	基本、身体拘束はしない方針である。現在、夜 間でのベッドから車いすへの移乗時の把握のた めに、センサーマットの使用はある。フロア間のエ レベーターは暗証番号による開閉となっている。 マニュアルの熟読と並行して、チェックリストや不 適切な事例を基に、職員の意識統一を図っている。	利用者の閉塞感軽減のためにも、フロア 間の行き来ができる時間帯の検討を望み たい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	スタッフ間で注意しあいながら取り組んでい る。	上記同様、職員研修により個々の気づきを促 し、意識定着に努めている。法令内容の理解とと もに、普段の声かけや関わりの中で、不適切にな らない対応を職員に注意喚起している。管理者 は、職員間の意思疎通、連携の強化にも取り組ん でいる。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解については外部の研修がある時参加している。後見人の必要な状況になった時、ご家族から相談があり支援している。	成年後見制度の活用事例もあり、研修を通じた伝達は行っているが、職員の理解という点では、まだ不十分と思われる。家族からの相談を随時受けつけるなど、必要に応じて専門機関に繋げる姿勢でいる。	会議等の時間を利用してでも、制度内容のおおまかな理解を図っていただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時や、入居時の契約等で説明している。	まずは見学してもらい、雰囲気や環境について把握してもらおう。併せて費用やその他実費、退去条件、重度化や終末期体制について丁寧に説明し、納得を得ている。緊急時における搬送、リスク管理についても確認している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族懇談会で頂いたことについて、会議の中で検討・対応している。	運営推進会議や家族懇談会、行事参加等、家族来訪の機会を数多く設け、積極的に聴くようにしている。普段の来訪においても、個別の相談、こちらからも声かけし、話しやすい雰囲気づくりに努めている。外出や好みの飲料等、個別の要望が多く、その都度反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申出があればその都度対応している。	毎月のフロア会議や申し送り時に意見や提案を受け、話し合っている。利用者個々のケア方法に関することが多いが、職員が意見を出しやすい雰囲気、環境づくりを重視している。今後は、リーダーによる個人面談からより積極的な提案等を吸い上げていく方針である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整理が進み、職員がやる気を起こせるよう勤務状況の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は研修参加者が少なかったが、外部の研修受講の希望も出てきており、施設内は年間予定計画をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	芦屋市の事業者連絡会で毎月研修や会議があり参加している。		

自己 者第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後の不穏時等は、気をつけて傾聴に勤めコミュニケーションをとる努力をしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に御家族との会話をする時間をとり、不安な事や相談ごとがあれば傾聴し、安心して頂けるよう支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院の定期受診等、タクシーの対応や送迎介護の方への対応などもおこなっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分な意識付けは出来ていない。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えあう事は出来ている。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り得た情報を共有し、出来る限り支援できるよう努力している。	利用者が喜んでやってもらえることや得意なことなどを、日々の関わりを通じて職員が見つけ、反映するよう努めている。そのためには職員間の情報交換、共有には意識して取り組んでいる。宗教関係の付き合い、家族との食事や外出等の協力もお願いしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個別性を尊重し、スタッフが働きかけて関わりをもてるように支援している。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された方も、ご家族が困った時は相談に來られ対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との関わりの中で把握できた情報をスタッフ間で共有し、本人本位で検討している。	会話が成り立ちにくいなど意思疎通が困難な場合は、職員が利用者の表情やしぐさ、声かけした時の行動から気持ちを推し量っている。又、いつもと違う表情や何らかの喜怒哀楽を察知し、読み取るようにもしている。朝夕の申し送り時に職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の情報共有で、現状把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている。	現在は、ケアマネが、職員からの意見を参考に基本半年ごとにモニタリング、計画の見直しをしている。計画更新時に、担当者会議で他職種間で協議し、計画に反映させている。今後は、担当制による丁寧な観察により個々の役割を見出し、計画に活かす考えである。	利用者の担当制を設けることで、よりきめ細かい観察が可能となり、利用者の状態変化に即した計画となることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が充分ではない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応は出来るよう		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りの時地域の方にお手伝いしていただいたり、入居者様の希望でヤクルトの販売に来ていただいている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連携を取りながら出来ている。	家族の付き添いで、以前からのかかりつけ医に受診している人もいるが、ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医としている。その他歯科往診、必要に応じて皮膚科、泌尿器科の往診も利用できる。利用者の体調管理の徹底がなされ、安心できる充実した医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	28年4月1日より、施設内の看護師を1名常勤にしてグループホームの健康管理も出来るようにした。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	南芦屋浜病院と連携しており、入院時の見舞いや、連携室と連絡を取り合って、良好な関係を築いている。	入院時は事業所の看護師がサマリーを持参し見舞い、家族の意向に添い、医療機関との情報交換を密に図っている。その結果、早期退院が可能となり、退院後のスムーズなケアに繋がっている。協力医との連携も確保されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約医師から、家族へ状態を説明し、家族の希望により施設で最期まで介護をして欲しいとの事で、心不全の方の看取をした。	契約時に、重度化した場合の事業所で出来ることを書面で説明し、同意を得ている。看取りの事例もあり、家族が納得の得られる終末期をむかえられるよう話し合いを重ねている。今後は、看取りに向けた事業所の方針を共有できるよう職員全体での勉強会も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、昼間は医務室へ、夜間はオンコール体制をとっている。年2回の訓練を実施している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施している。	消防署立ち合いで、併設事業所と合同による避難訓練を行った。同時に夜間想定も実施したが、利用者は参加していない。防災マニュアルマップ、備蓄などの整備はあるが、地域との具体的な協力体制は未だ出来ていない。	次回、可能な利用者だけでも一緒に、夜間想定訓練を行ってはいかがいか。又、継続して運営推進会議で協議し、地域への協力を呼びかけていただきたい。

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけておこなっている。	新人研修やフロア会議で勉強会を実施している。特に言葉づかいなどを意識して気を付けるよう職員同士注意し合い、朝のミーティングでも振り返るなど、実践に繋がるよう努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクや買い物に出かけたり、食後の洗いもの等をして頂いている。	併設の厨房で調理した物が届く。利用者は、後片付け等を手伝っている。時には手作りケーキやおやつを利用者も一緒に作ったり、要望で喫茶店に行くこともある。現在職員は、一緒に食していないが、おやつレクを通して一緒に作り、食べることを楽しんでいる。	おやつ以外の普段の食事についても、同じものを一緒に食して楽しめる機会を、検討できないだろうか。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけや訪問歯科のケアを受けている。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフ間での検討や家族との希望・相談も含めその人に合った対応をしている。	日中リハビリパンツが多数で、中には布パンツの人もある。個別のチェックリストを参考に、夜間、トイレ誘導をしている。失禁の際、自分で着替える人もおり、職員は、さり気なく見守っている。自立による現状維持が出来るよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量や水分量のチェックをしながら支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者に合わせる努力は行っている。	基本的には週2回の午前中の中入浴であるが、要望に応じて時間を変えることもある。体調により翌日に変更したり、個々に応じた支援を行なっている。職員と会話をしながらゆっくり入る人もいる。個々にくつろげ、楽しめる入浴が出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出・ドライブ・お買い物等機会を設けている。	個別の要望で買い物やドライブに行っている。近隣の市民集会所の趣味の集まりに参加している人もいる。時には外気浴も兼ね、屋上の菜園に散歩を兼ね職員と水遣りをする。気候のいい時期は、できるだけ戸外へ出かける機会を設けるよう努めている。	

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は一緒に出かけるが、お金の管理は施設で管理している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り努力している。	広くゆったりとした室内で、白い壁に絵画が飾ってある。明るい室内はサロンのような清潔感のある空間である。仕切り扉は木の和風調の格子戸で暖かみがある。廊下も広く、安全に配慮された動線となっており、利用者はユニット間を自由に行き来している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	充分ではないが出来ている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各自の好みに合わせて家具の配置なども本人に意向に合わせている。	全室フローリングで 広さの違う3タイプの居室がある。各居室には、据え付けのチェスト、洗面台がある。利用者は使い馴れた家具や仏壇を持参したり、据え付けのピクチャーレールを利用し写真等を飾っている。自分らしい個性的な居室となっている	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりには配慮している。		